

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 校訓 『強く 正しく 明るく』 将来社会の一員として生きがいをもって生きることのできる活力に満ちた人間の育成に努める
- 教育方針 『教育基本法および学校教育法に則り、児童・生徒の障がいや発達の状態、特性に応じた 適切な教育を行い、全人的な発達を図ること』を基本として
- めざす学校像『一人ひとりの児童生徒の障がいや発達の状態に応じた最も必要で適切な教育の創造』の実現に向け、教職員が一丸となり取組みます。
 - 1 子どもの人権を大切に安全で安心な学校づくり。
 - 2 子どもの障がいの状態に応じた支援の方策を図るため教員の専門性の向上と授業改善の工夫の実施。
 - 3 将来の共生社会での生活を目標とし、キャリア教育の重要性を認識し、個別の指導計画、個別の教育支援計画の活用を推進。
 - 4 医療・福祉・労働等の関係機関と連携を強め、開かれた学校づくり、支援学校のセンター的機能の発揮。
 - 5 学校組織の見える化と、効果的で機能的な組織づくり。

2 中期的目標 (*評価方法)

1 子どもの人権を大切に安全で安心な学校づくり。

- (1) 重度・重複障がい、医療的ケアが必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師等と連携を図るとともに平成 27 年度に作成した校内医療的ケアマニュアルを活用し安全な指導を継続する。
 - * P T A 役員・医療的ケアを受ける保護者・教員との意見交換の場を持ち課題の整理、情報の共有化を図る。
 - * 校内整備の推進。平成 30 年度には、保護者向け教員向け学校教育自己診断アンケート肯定的回答率 20%アップ
 - * ヒアリング事例の速やかな報告による共有、事例の蓄積・分析・検討を行い実施体制の評価・検証を行う。
- (2) 児童生徒一人ひとりの自己実現をめざした生活指導・健康教育・人権研修・環境整備等を実施する。
 - ア 系統性のある健康教育や性に関する指導を実施し、児童生徒の正しい知識理解を深め自己肯定感の向上と生きる力を高める。
 - イ 子どもの人権を大切に人権研修の実施
 - ウ P T A と協働した防災体制の構築や救命救急法研修の実施。
 - エ 平成 28 年度末で全面委託に変わる通学バス等の安全体制を確立させる。
 - オ 平成 27 年度に引き続き老朽化に伴う校内の施設設備の改善に取り組む。(東門の福祉整備、給食室の改善等)
 - * 研修については教職員アンケートによる評価・検証を実施する。保護者・教職員学校教育自己診断において、施設設備改善、通学バス関係の肯定的回答率 20%アップをめざす。

2 子どもの障がいに応じた支援を図るための、教員の専門性の向上と授業改善を工夫。

- (1) 授業改善を主軸においた校内研修や授業実践の公開、外部人材や教育センターパッケージ研修支援を活用し支援教育の経験の少ない教員の指導力・授業力の向上、障がい理解や自立活動、授業の研究・研修の組織的体系の整備を行う。
 - * アンケートによる効果測定を実施し検証する。
- (2) ア 肢体不自由や知的障がい、自閉症や精神疾患、発達障がい等の障がい特性等の理解や指導技術の専門性高めるため引き続き「福祉医療関係人材の活用事業」を活用し研修や事例検討会等を実施等し教員の指導力・授業力を高める。
 - * アンケートによる効果測定を実施し検証する。
 - イ タブレット PC16 台の 100%稼働と授業実践の交流会を実施して専門性の向上を図る。
 - * 活用実績を基にした効果的活用検証の実施
 - ウ 平成 28 年度学校経営推進費「BOOK FOREST～おはなしの森～」を活用し、表現力を高め、創造力を豊かにする読書環境の充実と、子どもの「生きる力」を育む読書活動を推進

3 キャリア教育の重要性を認識した個別の指導計画、個別の教育支援計画のさらなる活用の充実。

- (1) 就学前から卒業後の進路に活用でき評価と連動する個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と引継ぎ・保管の充実。
- (2) 小学部・中学部・高等部を通じた進路の取組みの充実
- (3) 高等部職業コースの課題を整理と見直し、就労を希望する生徒のチャレンジを支援する体制の充実。
 - * 学校支援社会人等指導者活用事業を活用した進路学習の実施
 - * 進路にむけた取組みについて保護者向け学校教育自己診断の肯定的評価 20%アップをめざす。
 - * 職場実習先の協力企業を平成 27 年度の 20 社から、さまざまな業種の企業に対象を広げ段階的に協力企業を増やす。

4 地域・医療・福祉・労働等の関係機関との連携強化による開かれた学校づくりと支援学校のセンター的機能の発揮。

- (1) 支援チームで巡回相談や教育相談や講師派遣を展開し、障がいのある子どもが地域で学ぶ体制づくりを推進。学校経営推進費を活用した読書支援の実施。
- (2) ボランティア活動(校内環境整備、学習サポート活動)等の継続、活動内容の充実とさらに開かれた学校づくり
- (3) 学校ホームページ等を活用した最新の情報発信、講義・相談等支援教育への理解・支援の深まりと広がりをめざす。
- (4) 各学部における交流及び共同学習の推進
 - * 学校教育自己診断それぞれの項目の肯定的評価 20%アップをめざす。

5 学校組織の見える化と効果的で機能的な組織づくり。

- (1) 学校組織の見える化を図り、学部連携及び教職員が一体となった効果的で機能的な組織づくりの促進。
- (2) 首席がキーパーソンとなり、円滑な業務運営を図るため各分掌長と連携を図った運営及び分掌間の連携による円滑な業務運営の推進。
- (3) 初任者および教職経験の少ない教員とミドルリーダー等の人材育成の推進。
 - * 学校教育自己診断及び学校運営に関する提言シート、ヒアリング等により P D C A サイクルで検証しながら推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>学校教育自己診断の結果と分析</p> <p>1、9月に保護者アンケートを実施。</p> <p>集計結果及びその対応案を学校協議会に提示する。(12月学校協議会に提示)</p> <p>①アンケートの回収率を上げるため、アンケート様式と回収方法の見直しを行った結果回収率が昨年度比15%アップした。</p> <p>②肯定的意見が60%を下回る項目と、否定的意見が20%を超える項目、「わからない」が多い項目をピックアップし対応策を関係部署で検討した。</p> <p>●肢体不自由と知的障がいのある学部・課程を越えた交流がある。(肯定的意見53%)</p> <p>●学校支援ボランティアについて知っている。(知っている48%)</p> <p>●地域の学校との交流・共同学習はできている。(肯定的意見49%)</p> <p>→この3項目に関しては、取り組んでいることを保護者にどのように伝えていくかが課題である。連絡帳、便り、HPなど様々な場での発信をより強化していく。</p> <p>●清掃(指導)活動が行き届いている。</p> <p>→肯定的意見は60%である。使用頻度が低い物は片付け、不要な物は廃棄するなどして、引き続き、児童生徒の学習環境として校内が整理整頓された状態を毎日維持することが必要である。</p> <p>○全体を通して、学習活動の様子や伝えたい情報が保護者に伝わっていないことが、考えられる。ホームページの充実とアクセス数の増加が課題である。また、ホームページやブログ以外の新たな方法も検討する必要がある。</p> <p>2、9月に教員向けアンケートを実施</p> <p>集計結果について学校協議会に提示する。(12月学校協議会に提示)</p> <p>肯定的意見が低い項目、保護者アンケートと結果が大きく乖離している項目を中心に検討する。</p> <p>●清掃(指導)活動が行き届いている。(肯定的意見は40%)</p> <p>●備品、消耗品を整理し十分に活用している。(肯定的意見は62%)</p> <p>→教員側からも清掃、整理が行き届いていないという意識を持っていることが伺われた。学校内の環境整備は教育活動の基盤となるということを改めて認識し、指導の一環としての清掃活動の取組みも考える。</p> <p>●施設・設備の改修は計画的に行われている。</p> <p>→肯定的意見は24%で、著しく低い割合となっている。学習環境整備の改善、教職員の執務環境の整備を分けて考え、長期的な施設・設備の改修のビジョンを持ち優先順位をつけ計画的に行う。</p> <p>●情報機器は十分に設置され活用している。(肯定的意見は52%)</p> <p>→情報機器の計画的な整備と活用について講習会の実施も含め検討していく必要がある。</p>	<p>第1回 平成28年 7月4日(月) 13:30~15:00 場所 本校会議室にて実施</p> <p>第2回 平成28年12月15日(木) 13:30~15:00 場所 本校会議室にて実施</p> <p>第3回 平成29年2月27日(月) 13:30~15:00 場所 本校会議室にて実施</p> <p>協議内容・意見</p> <p>平成28年度学校経営計画(取組と評価等について)</p> <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉整備工事や学校経営推進費を活用した校内改修工事の説明を行う。(第1回 学校協議会) 改修後の図書室・東門・トイレなどの見学(第2回学校協議会) 図書室は学校経営推進費を活用し[Book Forest(おはなしの森)計画]のもと絵本やデジ図書の充実、椅子を降りに読み聞かせを楽しむコーナーのある図書室を作ることができた。今後、授業で効果的にみんなで使うことができる図書室に取り組む。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内だけでなく、地域に向けても開放してほしい。 初任者、新転任者等経験の少ない教員に対して専門性の継続と日々の事故防止のための研修を計画してほしい。 個別の支援計画と個別の指導計画は、在籍中の各部門、担任間での引き継ぎ・連携や卒業後への引き継ぎをさらに充実してほしい。 <p>○29年度教科書採択について</p> <p>児童生徒にあわせた教科書を選び、日々の学習で活用している。</p> <p>(意見)日々の授業の中で、十分に活用してほしい。</p> <p>○学校教育自己診断アンケートについて</p> <p>保護者用・教職員用で実施。回収方法を見直すことにより、昨年度より回答率・回収率がアップした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 両アンケートとも肯定的評価60%下まわるもの、否定的評価が20%以上を課題として各学部で検討し第3回学校協議会で報告した。 <p>*保護者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流授業・活動について 学部間交流・地域間交流については、各部で行っているが、保護者への伝え方を工夫し、さらに周知を進めていくようにする。 <p>(意見)今後、ホームページや学年便りなどを活用し、知らせていくようにしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路の情報とアドバイスについては各部、学年の進路懇談会や春秋の施設見学会を実施している。多忙を理由に参加されない保護者も多い。 <p>(意見)時期等も検討しながら、今後も情報発信をしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアについて <p>体育室で行われたPTAバザーの一角に医療的ケアの理解推進コーナーを設け、保護者が中心となり展示物を作成・展示し本校の医療的ケアの状況などを保護者や全校の教職員にも知っていただく機会を設けた。</p> <p>○授業用アンケート</p> <p>授業参観の場などを活用し保護者に回答いただいた。昨年に比べて回収率はあがった。(意見)見学後にアンケート期間を設け授業見学を行う中でアンケートを行ってはどうか。</p> <p>○防災について</p> <p>(意見)・地震・火災非難訓練等の研修の充実を図ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時の常備食について、知的障がいのある人は普段口にしていないものは受け入れられないこともあるので、慣れてもらっておく必要がある。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 体罰問題について、十分に注意してほしい。 PTA活動を知ってもらい保護者の横のつながりを大切にしていきたい。 教職員の専門性を高めるために研修を積んでもらい、その専門性をいかに継続していくか考えていってほしい。 時間外の勤務をなくし、ゆとりを持って毎日の指導にあたってほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価

<p>1 安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) ア 校内医療的ケアマニュアルを活用し安全な指導を継続実施 イ P T A 役員・医療的ケアを受ける児童生徒の保護者・教員との情報共有の推進</p>	<p>(1) ア 重度・重複障がい、医療的ケアの必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師等と連携を図り、校内組織や校内医療的ケアマニュアルの活用と安全な指導の継続実施 イ P T A 役員会・医療的ケア保護者部会、教員と情報の共有化のための会議の設定</p>	<p>(1) ア・マニュアルの時点修正を行い、医療的ケア実施該当者に研修を実施する。マニュアル活用は実施しながら検証する。研修は計画的実施により検証する イ 回数・内容を整理し、自己診断評価 20%アップ</p>	<p>(1) ア・教員アンケートを行い、その意見を検討してマニュアル改訂を行った。来年度4月よりそのマニュアルで実施する。研修は保健室で一括管理し、より計画的実効的に運用している。(◎) イ・9月時点での自己診断評価の保護者アンケート「医療的ケアの必要な児童生徒のために看護師がいることを知っている」項目は昨年度比8%アップであるが、P T A の係の中に医療的ケアに関わる部署を作り保護者への周知を図る素地が出来た。また P T A 役員会・医療的ケア保護者部会を月1回定例化する事ができた。今年度8回実施し、その内容は教員にも周知した。(◎)</p>
	<p>(2) ア ・系統立てた保健指導・健康教育の推進 ・組織的な生活指導体制の確立と危機管理マニュアルの見直し</p>	<p>(2) ア・系統性と継続性のある健康教育や性に関する指導を実施し、正しい知識理解を深め児童生徒の自己肯定感の向上と生きる力を高める ・こどもの安全を守るため保護者の理解を深める ・自己実現をめざした生活指導の組織的な実施と危機管理マニュアルの見直し</p>	<p>(2) ア・アンケートや児童生徒への聞き取り等で効果検証する ・家庭訪問時で健康教育の理解啓発の実施 ・迅速な対応を図ることのできるマニュアルの作成</p>	<p>(2) ア・生徒指導事案が発生した場合に、生徒指導関係者会議を行い、関係者で対応を協議し組織として生徒指導を実施する体制を取っている。(今年度は関係者会議を9回実施) ・危機管理マニュアル内の[児童生徒行方不明時の緊急対応]を再検討し、連絡系統や初動捜索の体制の見直しを行った。(○)</p>
	<p>イ 子どもの人権を大切にする人権研修の実施</p>	<p>イ 日ごろからの人権感覚に関する理解啓発と人権研修の実施</p>	<p>イ アンケートによる効果検証</p>	<p>イ 外部講師を招き人権研修を実施。具体的な事例を基にし、また意見交換をする場があり分かりやすかったという意見が多数あり。また各部別研修の中で個別の事例検討などを実施。(○)</p>
	<p>ウ P T A と協働した防災体制の確立</p>	<p>ウ P T A と協働した防災体制をさらに推進する</p>	<p>ウ・備蓄食料の管理システムの構築と引き続き防災体制の検討と整備の促進</p>	<p>ウ・P T A と協働して2学期から非常用持出袋の運用を開始し、個人に応じた備蓄品を準備する体制をとっている。 ・保護者迎への基準震度の設定や児童生徒の具体的な引継ぎ仕方などを、P T A と協働しながら4月から開始をめざして進めている。(○)</p>
<p>エ 通学バス等の安全体制の充実</p>	<p>エ 通学バス管理システムの構築の確立</p>	<p>エ 校内体制の確立、委託業者との連携システムの整備等安全体制の確立</p>	<p>エ・昨年度から引き続き、委託会社の運転手・添乗員との連絡会を月1回実施。また今年度2学期から運転手・添乗員のチーフ、サブチーフとの連絡会も月1回程度設定し、報告連絡を密にしている。(○)</p>	
<p>オ 校内の施設設備の改善</p>	<p>オ・校内巡視や校内安全点検実施による実態把握と迅速な修理等の対応。 ・基礎的環境整備と合理的配慮をいかけた施設環境整備</p>	<p>オ・修理や改善状況の集約と整理。 * 学校教育自己診断の施設設備の改善の項目で肯定的評価 20%アップをめざす</p>	<p>オ・日常的に校内を巡回し施設設備の点検を実施、また各学部課程及び分掌から不具合の報告等があったときは、その都度現場を確認するなど、施設設備の維持に必要な修繕等に迅速に対応した。 ・老朽化等による改修・補修等工事については、緊急性及び重要度の高いものから優先順位をつけて迅速に対応した。 ・施設環境整備は、福祉対策整備費事業として東門駐車場、トイレ回りの改修整備工事及び、プールサイドノンスリップシート貼換工事等を実施。(○)</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 専門性向上の取組みと授業改善</p> <p>(1) ・授業改善を目的とした校内研修や授業実践の公開。 ・外部人材等を活用した授業力を向上 ・障がい理解や自立活動、授業研究・研修の推進と組織的体系の整備</p> <p>(2) ア 引き続き福祉医療関係人材の活用事業やSSWを活用し指導力授業力を高める</p> <p>イ 子どもの障がいの状況に応じた支援の方策を図るICT機器を活用する授業実践の実施</p> <p>ウ 子どもの読書環境を整え、主体的に生きる力を推進する</p>	<p>(1) ・校内研修や授業実践の公開、教育センターのパッケージ研修支援等の活用 ・外部人材等を活用し、障がい特性等の理解や指導技術の専門性を講義や事例検討等で培う ・府教育センター研修や校外研修の参加を推奨し、学び続ける教員の育成と専門性の向上を図る ・研修を系統的に実施する体制の整備</p> <p>(2) ア 外部人材の活用 ①大学の研究者5回程度 ②医師・医療関係者2回程度 ③臨床心理士20回程度 ④理学療法士、作業療法士等各6回程度 ⑤SSW6回程度</p> <p>イ 各学部に常備しているタブレットPCが効果的に学習に活用できる情報発信や授業実践の交流会を実施する ・無線ルーター (Air Mac Express) を10台導入したことでWi-Fi環境を広げ・タブレット端末の活用の範囲を広げる。 ・地域連携と支援教育の専門性の向上をめざすプロジェクトに取り組む</p> <p>ウ 学校経営推進費を活用し学校図書室の整備 ・蔵書数の拡大 (絵本など) ・タブレットPCを活用した読書 ・絵本の読み聞かせ活動や、PCを活用した読書活動の推進</p>	<p>(1) ・アンケート等による効果検証・年間6回以上の開催参加率とアンケート等による効果検証 ・研修会の参加と校内への伝達講習の実施 ・効率的な研修実施と体系の確立 * のべ対象とする教員数10%向上し80%以上の参加率をめざす * 参加人数の集約とアンケート実施による研修検証</p> <p>(2) ア 福祉医療関係人材の活用事業と2年目となるSSWの効果的な活用 * アンケートにより活動実績についての効果測定を実施する</p> <p>イ ･タブレット型PCの活用状況を各学期に学部ごとで集約する(肯定的評価70%) 活用状況の課題を分析し効果的な使用方法や実践を共有する ・研究成果を地域支援活動や校内研究報告会等で報告し理解を深める(肯定的評価70%)</p> <p>ウ 図書室の整備に伴い、本の貸出し数や図書室の利用状況をまとめ、比較検討する 3年計画で、図書室の活用率を100%にあげる(昨年度27.3%)</p>	<p>(1) ・発達学習会に外部講師を招き研修を行った。近隣校からも24名の参加。教育センターのパッケージ研修を8・11月に行い、授業実践の検討を行った。初任者研究授業及び協議を6回実施し、協議には学部講師を招き、指導助言。公開授業の期間を設け広く授業を公開した。(○) 実践報告会では教育実践や教育活動の成果を報告・討議を行う。実践を高め合い力量を高める場とする。(○) ・校内外の様々な研修案内を行い、参加を呼びかけた。また教員アンケートをとり、研修の見直しを進めている。(○) ・外部研修に参加した教員による報告会を実施し、情報交換・共有をした。(○) ・各分掌、委員会と連携し、校内で行われている研修をまとめ、系統立てた研修が行われているかの検証を行う機会を設けた。(○) ・教員用自己診断アンケート「教育活動に役立つ研修を計画的に行っている」肯定的回答が77%である。昨年度比7%アップ。(○)</p> <p>(2) ア ･SSW相談事業は、相談回数6回、相談件数10件実施(1月10日現在)年度末までにあと2回、4件実施予定。今年度は不登校、家庭要支援が必要とされるケースの相談が多く、校内支援の体制を複数の分掌が集まり検討する会議の場を設けた。SSWに相談したケースにおいて、校内支援体制を構築して、福祉機関と連携がとれたケースもある。SSW相談は効果的だったという意見が多数挙がっているが、一方で相談後の進め方が担任まかせになりがちであることが課題として挙がっている(○)</p> <p>イ ･無線ルーター (Air Mac Express) を導入したことで、体育室と運動場以外にwi-fi環境を構築することができた。そのため本校管理のタブレット型PC、学情パソコンが無線でログインできるようになった。そのことからICT機器の使用に関して煩雑さが大幅に解消できた(◎)</p> <p>・タブレット型PCの活用率は向上し、ほぼ毎日のように80%程度の活用がみられた。(◎)</p> <p>・学校図書室のデジタイズ図書を活用できるように準備を進めている。今年度中に電子図書の50%を読めるように進めている。来年度に100%の活用ができるように準備を進めている。(○)</p> <p>・魔法の種プロジェクトに参加し、本校の児童を対象に研究を行った。1月に東京大学エネオスホールでポスター発表を行った。(○)</p> <p>ウ 図書室の整備で読書を楽しむ環境が改善され、授業や学級活動で使用できる環境は整えつつある。絵本の蔵書数600冊アップ、デジタイズ図書はPCでは使用できるようになった。来年度はタブレット型PCで使用できることが課題となる。蔵書管理や貸し出し等をバーコード使用しPCで行えるようになった。(◎)</p>
--	--	---	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 キャリア教育の重要性を認識した個別の指導計画、個別の教育支援計画のさらなる活用の充実</p> <p>(1) 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と保管体制の構築</p> <p>(2) 高等部職業コースの課題を整理し、就労を希望する生徒のチャレンジを支援するシステムを構築する</p> <p>(3) 安定した職場体験実習の展開のため、地域と連携した総合的な職場体験実習システムを構築する</p> <p>(4) 高等部職業コースを充実させ、進路に向けての力をつける</p> <p>(5) 社会参加ができるような進路の保障</p>	<p>(1) 小・中・高・卒業後につなぐ個別の指導計画と個別の教育支援計画（移行支援計画）の保管方法・活用の検証と課題の整理</p> <p>(2) 職業コースの自立に向けた指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生～3年時を見通した職場実習の充実。指導内容に卒業後の自立に向けた内容を取り入れ就労意欲と態度を育成 ・地域支援ボランティア活動と職業コース生徒の連携した活動 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク及び就業・生活支援センター等の関係者との懇談会の実施。 ・学校支援社会人等指導者活用事業を活用し職場体験実習等の充実に努める <p>(4) 様々な資格試験や作品展、競技会への出品や参加、応募を奨励する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事やクラブ活動等の中で知肢併置校の特性を活かし、社会的自立をめざす <p>(5) 福祉等関係機関や放課後デイサービス機関との関係を強化し、支援計画・研修などの取組み等の共有を図る</p>	<p>(1) 個別の教育支援計画の保管と活用の検証実施</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地域からの引継ぎ率小80%中83%高40%、市教委等への理解啓発を進める <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労希望者の100%ニーズ達成 ・就労希望者について、全員の就職をめざす * 指導経過の集約と進路決定数の集約と検証 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会を年2回実施する。 ・さまざまな職種職場体験実習先を2～3社増やす (20社→22～23社) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツフェスタ、サッカー大会、バスケットボール大会への参加。高校書道展等への出品、漢字検定等への応募 ・全校学校行事等で生活課程と普通課程が協同で活動する * 学校教育自己診断肯定的評価 20%アップをめざす <p>(5) 関係機関放課後デイサービス機関の研修参加の呼びかけを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> * アンケート等による効果検証 	<p>(1) 個別の教育支援計画の確認、運用・保管のシステムは支援部が中心となり円滑に実施できている。小学部・中学部への引き継ぎ率は80%を超える。地域の中学校からの教育相談や引き継ぎ時に資料として個別の教育支援計画の準備を依頼した。(○)</p> <p>(2) 3年生の職業コースグループ及び次の段階の一般グループにおいて、就職者3名と昨年度より数は少なかったが、個々の適性や実態に合わせ、現場実習の回数や職種を増やし、よりマッチングを重視した就労支援をすることができた。離職せず確実な定着が期待できる。・3年生の「ワーク」という授業の取り組みにおいて、地域の環境ボランティアと一緒に作業し、草引きや園芸等の方法の指導を受けている。作業終了後、接客の実践として生徒がボランティアの方にお茶のおもてなしを実施している。(○)</p> <p>(3) 就職内定者は必ず、地域の就労支援センターに登録、就労先企業に同行してもらい卒業後のフォローをってもらうように手続きを進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職種での現場実習を実現できた。(現場実習新規開拓3社) (○) <p>(4) 社会的自立に向けての取組としてさまざま取組んできたが、学校教育自己診断アンケートの回答項目に結びつかず20%アップにつながらなかったが、子どもたちの讃歌展に全校をあげて取組み美術・図工の力作を発表した。高等部を中心にさまざまなスポーツ大会へ参加した。目標を持つことで徐々に参加者が増え生涯スポーツへの意識や自信を高めるきっかけとなった。文化系では高等部普通課程を中心に書道展や芸文祭へ参加した。漢字検定の資格検定も本校を会場に実施した。9名の受験者があった。今後はアンケート内容や活動の周知方法を検討する。(◎)</p> <p>(5) 今年度は年間6回、8ヶ所の施設職員23名を受け入れ、授業見学を中心に、重度の障がいの方への授産作業のあり方等支援学校の状況を提供した。(○)</p>
---	---	--	--

府立東大阪支援学校

<p>4 関係機関との連携強化、開かれた学校づくりと支援学校のセンター的機能の発揮</p>	<p>(1) 支援チームで障がいのある子どもが地域で学ぶ体制づくりの推進。</p> <p>(2) ボランティア活動(校内環境整備、学習サポート活動(読み聞かせ活動)等)の継続と充実</p> <p>(3) 学校ホームページ等の活用、本校の教育活動の理解啓発</p> <p>(4) 本校児童生徒の交流及び共同学習の推進</p>	<p>(1) 引き続き支援チームで主に中河内地域の幼・小・中への巡回相談や教育相談や講師派遣を展開し障がいのある子どもが地域で学ぶ体制づくりを進める</p> <p>(2) ボランティア活動(校内環境整備、学習サポート活動(読み聞かせ活動)等)の継続と充実</p> <p>(3) 学校ホームページや学校案内の改定等を活用し本校の教育の情報発信と理解啓発に取り組む</p> <p>(4) 小学部・中学部・高等部の交流学习(訪問教育のスクーリング、居住地校交流を含む)と共同学習の推進</p>	<p>(1) 各市委員会及び学校園からの評価、巡回相談回数・相談回数の活動のまとめと整理</p> <p>(2) ボランティア活動計画に基づく結果のまとめと検証</p> <p>(3) ホームページの情報発信回数、レイアウトの変更などについて *学校教育自己診断分析と学校協議会で意見を集約し検証する</p> <p>(4) 各学部を中心とする学校間連携の実施とアンケート等による効果検証、居住地校交流の実施のまとめと検証</p>	<p>(1) 例年行ってきた地域のケース会議を取り組むと共に、来校相談に尽力を注いだ。そのため、約20件程度の来校相談を受け入れることができた。来年度の中河内ブロックの幹事校に向けて、現幹事校の八尾支援学校と連携して地域支援に取り組んだ。今年度より拠点校型の巡回相談をブロックで立ち上げ、スタートさせることができた。また啓発のためのニュースを作成し、地域の学校に配布することができた。 (◎)</p> <p>(2) 校内環境整備は年間8回の実施。学習サポート活動では、全校での昼休みの読み聞かせ会1回、中学部が読み聞かせ活動4回、人形劇鑑賞と音楽鑑賞を各1回、計6回実施した。生活課程で手芸教室を3回ビジネスマナーの講習を2回などボランティアを活用した。その他前述の校内整備時にワークの授業の一環でボランティアさんとの共同作業など継続して行った。(○)</p> <p>(3) ホームページのレイアウトを刷新する計画を行い、来年度のリニューアルに向けて準備を進めている。(△)</p> <p>(4) 学校間交流15回実施(小5、中7、高3)居住地校交流6回実施。各交流の後、アンケート等により検証を行った。小学部においては、交流校との合同研修を実施した。(○)</p>
<p>5 効果的で機能的な組織づくり</p>	<p>(1) 校内組織の機能的運営</p> <p>(2) 人材育成</p>	<p>(1) ・学校組織の見える化を図り、学部間連携の促進と教職員が一体となった組織づくりの一層の推進 ・首席の分掌の統括と分掌長との連携強化により分掌間の連携強化と円滑な業務運営のさらなる推進 ・学校教育自己診断アンケート(教職員・保護者)の様式・回収方法の見直しにより意見の集約と活用</p> <p>(2) 初任期(1年目～4年目)教職経験の少ない教員等の校内育成プログラムの構築と5年目～10年目の教員の大阪府教職スタンダードを基にしたミドルリーダー育成プログラムを検討する</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断・学校運営に関する提言シートやヒアリング等を参考にPDCAサイクルで実施し検証する ・評価・育成シートを活用した面談を活用し検証する。 ・学校教育自己診断のアンケートの様式・回収方法の見直しによる回収率の20%向上</p> <p>(2) 校内初任期・ミドルリーダー育成プログラムの構築</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断の結果を職員会議や学校協議会で報告するとともに学部会でそれぞれの課題に対する方策を検討した。 ・教職員からの学校運営に関する提言シートの内容を職員会議で報告し、今後の見直しなどを校長から説明を行った。 ・学校教育自己診断のアンケートの様式・回収方法の見直しを行い、保護者アンケートは前年度比15.5%回収率アップした。(○)</p> <p>(2) 教育センター研修(初任者研修・10年目経験者研修)の校内授業研修で研究授業と研究協議を実施した。加えてパッケージ研修を活用した2年目・3年目の教員も模擬授業と研究授業を実施した。(○)</p>